

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(105)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(105)—

#### 1. 始めに

前報(104)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽協奏曲です。

**SERAPHIM AA・5069**

モーツアルト クラリネット五重奏曲イ長調

クラリネットとピアノ、ヴィオラのための三重奏曲変ホ長調

ジェルヴァース・ド・ベイエ (クラリネット)

メロスアンサンブル

#### 3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

**SERAPHIM 盤**ということで、EMI、正相、第4時定数 Low で聴いていきました。

クラリネット五重奏曲はお馴染みの曲です。

ベイエのクラリネットは、ふくよかに生き生きと演奏されています。メロスアンサンブルは、艶のある躍動的な演奏で、クラリネットとの対話が進行します。

クラリネットとピアノ、ヴィオラのための三重奏曲は、初めて聴く曲です。クラリネットは五重奏曲と同様にふくよかに、ピアノは豊かな響きで、ヴィオラは地味ながらしっとりとした落ち着いた音色で、三者三様の持ち味を生かしながら、対話が進行します。

#### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上